

## 玉名高等学校全日制 令和2年度(2020年度)学校評価表

<b>1 学校教育目標</b>
(ア) 「令和2年度(2020年度)県立中学校・高等学校における教育指導の重点」を踏まえ、本校の三校訓「至誠・剛健・進取」の具現化に努め、徳・体・知の調和がとれた全人教育をめざす。 (イ) これまで積み上げてきた本校の教育方針に基づき教職員が一体となって、家庭や地域との連携のもと、活力ある学校づくりをめざす。

<b>2 本年度の重点目標</b>
<b>本年度教育スローガン</b> 「夢実現・未来への挑戦 ～知性と感性を備えた若駒たれ!～」
① 玉名高等学校の生徒としての基本的な生活習慣の確立 ② 授業力向上及び個に応じた相談対応、学習指導及び進路指導 ③ 日頃からの職員間コミュニケーションによる学校改革の推進と同僚性の向上 ④ 特別活動(生徒会・部活動等)を生かし、自主性や創造性、奉仕の精神などを育成 ⑤ 地域・保護者との連携 ⑥ 読書活動の推進等、言語環境の整備
<評価> A:よくできている B:大体できている C:ややできていない D:できていない

<b>3 自己評価総括表</b>						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校の組織力の向上	学校組織の円滑な運営と活性化	職員間の円滑なコミュニケーションが図られるとともに、学校の課題が共有され、課題解決に向けた共通実践が行われている状態をめざす。	管理職への報告・連絡・相談が適切に行われるとともに、管理職から職員への目配り・気配り・声かけ等を行う。課題解決のためのプロジェクトチームを適宜編成し、校務分掌を超えて対応策について検討する。	A	【成果】ICT教育推進に関するプロジェクトチームを編成し、特に、臨時休校期間中の学習保障対策を講じることができた。 【課題】新しい学びの推進に関しては、校務分掌組織を整えて対応にあたる必要がある。
		効率的・効果的な職員研修の実施	本校が抱える課題に対して、各校務分掌において主体的に研修計画を立案し、効果的な研修が実施された状態をめざす。	限られた時間の中で効果的・効率的な研修を実施するため、各分掌会議等をOJTの機会と位置づけ、学校が抱える課題解決に向けた検討を行う。	A	【成果】新型コロナウイルス感染症対策として、会議や研修をリモートにより行い、効率的・効果的に実施することができた。 【課題】学校の課題解決に向けた検討は今後も継続して進める必要がある。
	安全な学校づくりの推進	安全点検の実施と改善	各学期に1回、教室や施設等の安全点検を実施し、点検率100%の状態をめざす。	保健環境部が立案し、全職員で取り組む。	A	【成果】昨年度まで年3回だった安全点検を毎月実施に変更した。全職員が必ず点検結果を入力する年3回分については、点検率100%、事後措置欄も事務の協力もあり、対応済みや補修の計画

					等について記入されるようになった。
	緊急事態への対応	職員・生徒の危機管理意識が高まり、さまざまな災害等に備えた取組の改善が図られた状態をめざす。	総務部が立案し、学校全体で取り組む。	B	【成果】避難経路は年度始めに職員・生徒に周知した。11月に避難訓練の代替として、シェイクアウト訓練を実施した。コロナ禍でできる範囲で啓発を行った。
業務改善働き方改革	生徒と向き合う時間の確保	校務の削減や効率化が進み、職員の時間外勤務時間が、法令で定められた上限の範囲内となった状態をめざす。	I C Tの活用等による業務の効率化を進める。職員の時間外勤務の状況等について検討を加え、業務改善や業務分担を進める。	A	【成果】ゆうネットやメールを活用した連絡や、各種アンケートをマークシートからF o r m sへ変更するなど、校務の削減・効率化を進めた。時間外勤務は45時間未満の職員が昨年度37.6%から今年度47.3%へと増加した。 【課題】職員間の業務負担に偏在があるため、業務削減と業務の平準化を図る必要がある。
学校の魅力化	授業改善への取組の充実	新学習指導要領の趣旨をふまえた授業改善に取り組み、「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業が実践された状態をめざす。	互観授業を活用し、職員は授業改善に取り組むとともに、相互に参観し、情報交換を行う。年2回(1・2学期期末考査後)、生徒による授業評価アンケートを実施して授業改善に活かす。	B	【成果】授業評価アンケートについては、1学期末と2学期末に実施した。1学期末はマークシートにより実施し、授業改善にとって有意義なデータが得られた。また、2学期を互観授業期間とした。 【課題】業務の削減・効率化を進めるため、2学期から授業評価アンケートをF o r m sにより実施したが、回答率の低さに課題が残った。
	魅力化と情報発信	本校の魅力が積極的に情報提供され、本校教育活動に対する興味・関心が高まり、入学志願者の倍率が1倍を超えた状態をめざす。	学校ホームページや学校案内パンフレット等の魅力化を図る。また、中学校等の訪問を積極的に行い、本校の魅力を発信し、理解促進を図る。	A	【成果】ホームページや学校案内パンフレットを魅力化し、オンライン説明会や学校紹介動画の配信、ポスター作成等を新たに行った。中学校訪問や説明会の内容を拡充し、入学志願者の増加を図った。

						【課題】担当部署の業務負担が非常に大きいため、役割の位置づけを見直す検討が必要である。
学力向上	確かな学力の養成と授業の充実	教科シラバスおよびルーブリックの作成	新学習指導要領の趣旨をふまえた教科シラバスとルーブリックを作成し、「指導と評価の一体化」が効果的に実施された状態をめざす。	教務部が中心となり、各教科と連携して取り組む。高進生については3年間を見据えて、中進生については、附属中との連携を密にし、6年間を見据えて作成する。	B	【成果】教科・科目によって進捗状況に差があるものの、シラバス、ルーブリックの作成は進んでいる。 【課題】中高一貫教育校としての、指導の充実については今後も検討を継続する必要がある。
		授業改善への取り組みの充実	互観授業において、全職員が3回以上参観し、職員間で積極的な意見交換が行われている状態をめざす。また、公開授業を各学期に1回、土曜日に実施（7・11・2月を予定）し、校外外から集約した意見が授業改善に効果的に活かされている状態をめざす。	2学期の全期間を互観授業期間とし、全教科で実施する。感想用紙を利用して率直な意見交換を行う。また、公開授業は、教育関係者のみならず保護者等広く参加を呼びかけ、様々な意見を集約できるようにする。得られた意見を授業担当者に返し授業改善に繋げる。	B	【成果】公開授業については、1学期は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施できなかった。2学期は新たな取組としてオンラインにより実施した。 【課題】オンライン公開授業の視聴者を増やすための情報提供について課題が残った。
		授業評価アンケートの効果的な活用	1・2学期期末考査後に全学年で実施し1学期のアンケート結果が、2学期の授業改善に効果的に活かされている状態をめざす。	生徒自身の学習に向かう態度を評価する項目と、教師の授業を評価する項目の2部構成でアンケートを実施する。アンケート結果を点数化して職員に返し、授業改善の参考資料として活用する。	B	【成果】1学期末と2学期末に、左記の2部構成の項目からなるアンケートを実施した。1学期末は有意義なデータが得られ、授業改善の参考資料として活用した職員が見られた。 【課題】2学期末は回答率が低かったため、1学期との比較が難しかった。アンケートの周知と実施方法について工夫が必要である。
	個に応じた学習指導	生徒理解の深化	生徒一人一人の学習到達状況が適切に把握され、全職員で共有された状態をめざす。	授業時数や行事予定を調整し、クラス裁量LHRや個人面談時間等の時間を確保するとともに、適切な時期に実施できるよう企画する。	A	【成果】授業時数や学校行事の調整等は可能な限り行った。

		習熟度別授業の工夫	学力に応じた効果的な授業が展開され、生徒の学力が確実に向上している状態を目指す。	1・2年の数学と英語、3年の数学における実施の効果について検証を行うとともに、さらに効果的な習熟度別展開の在り方を検討する。	B	【成果】1・2・3年の数学・英語において習熟度別展開授業を行った。 【課題】実施の効果に関する検証方法の策定が今後の課題である。
		I C T活用研究	I C T機器やI C Tツール、オンライン教材が活用され、それぞれの生徒に個別最適化された学習指導が行われている状態をめざす。	職員向けに校外内におけるI C T機器やI C Tツール、オンライン教材の活用事例に関する情報発信をするとともに、I C T機器やI C Tツールの操作に関する職員研修を実施する。	A	【成果】全職員によるI C T活用については、新たに充足したプロジェクトチームがその業務を担った。職員研修を複数回実施することで、職員のI C T活用能力は向上した。 【課題】I C T活用は魅力ある授業、個に応じた授業等の授業改善に直結するため、効果的・計画的な研究授業等を実施することにより、職員の指導力のさらなる向上が求められる。
中高一貫教育の推進	6年間を通じた中高一貫教育指導の充実	中高一貫教育校としてのグランドデザインの構想	中高一貫教育の方針や特色が再認識され、中高の全教職員が協働して、6年間または3年間で生徒を育成する指導体制の確立をめざす。	学校改革検討委員会を中心に、中高の連携を図り、併設型中高一貫教育校の特色を生かしたグランドデザインについて検討する。	A	【成果】令和3年度から新設する特進クラスについて、学校改革検討委員会と該当学年を中心として準備を進めた。コンセプトや教育課程等について検討し、周知した。
		中高一貫教育校の特色を生かしたカリキュラムの構築	併設型中高一貫教育校の特色等について共通理解が深まり、カリキュラム編成に向けた方針等が定まった状態をめざす。	教育課程検討委員会を中心に、生徒につけさせたい力を明確化し、中高一貫教育校のメリットを最大化するための適切なカリキュラムについて検討する。	B	【成果】教育課程検討委員会を中心として、カリキュラム編成の方針が定まった。 【課題】中高一貫教育校としての適切なカリキュラムの検討を継続する。
キャリア教育	進路希望に応じた学力の向上	コースの特性を生かした教育活動の展開	文系コース・理系コースで、それぞれの系統の特性を生かした教育活動を行い、生徒の進学希望実現をめざす。	教務部を中心に、学年・教科と連携して取り組む。教務部及び進路指導部が中心となり各学年で実施する。	A	【成果】習熟度別の授業や課外を実施し、生徒の学力や進路希望に応じた指導ができています。
	進路意識の高揚	進路講演会ははじめ各学年に応じた取組の充実	「キャリア教育講演会」を実施し生徒により広い視野で進路を考えさせることをめざす。	進路指導部が企画し、学校全体で取り組む。		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、キャリア教育講演会は実施できなかった。

の推進 (進路 指導)		キャリア教育「インターンシップ」を実施し、働く現場での経験をもとに、生徒が具体的な職業観を持った状態をめざす。	進路指導部で企画し、高校2年生を主な対象として実施する。		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各体験事業が中止となった。	
		若駒キャリア塾（職業別講話）を実施し、現場で働く方々の講和等を通じて、生徒がより具体的な職業観を持った状態をめざす。	同窓会・育友会等との連携・協力のもと、進路指導部が企画し、中学3年生と高校1年生を対象に実施する。		準備は進めたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止した。	
		一日若駒大学（出張講義）を実施し、生徒が大学での学びに関する興味関心と意欲を深めた状態をめざす。	進路指導部が企画し、高校1・2年生を対象に実施する。	<b>B</b>	【成果】全ての講座をリモートにより実施した。 【課題】対面での実施と比較し、今後、検証が必要である。	
	進路指導力の 向上		各種説明会、進路研究会へ参加し、教師の進路指導力を向上させ、生徒への進路指導がより具体化した状態をめざす。	進路指導部が立案し、各学年及び進路指導部職員を派遣する。	<b>B</b>	【成果】ほとんどの説明会等がリモートとなったため、3学年を中心に多くの先生方が、参加できるようになった。
			先進校視察を実施し、本校の進路指導や学習指導等の課題が改善された状態をめざす。	進路指導部と附属中学校が連携して立案実施する。		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、先進校視察は実施しなかった。
	探究的 活動の 充実	「総合的な探究の時間」等における探究活動の充実	「総合的な探究の時間」や各種進路行事を活用し、探究的活動やディスカッション等を行い、生徒がより深い思考力や協働的な問題解決能力を身に付けた状態をめざす。	「総合的な探究の時間」検討委員会で立案し、各学年部で実施する。	<b>A</b>	【成果】今年度が完成年度であったが、休校等によって計画の遂行が難しい中で、綿密な計画により順調に指導を行うことができ、成果発表会等も順調に行うことができた。
生徒 指導	基本的 生活習 慣の確 立	年間を通じて、教育活動の全ての場において挨拶及びマナー指導の充実	登校指導・下校指導を生徒指導部で企画し、全職員で取り組む。 生徒会生活委員会による挨拶運動を実施する。	<b>A</b>	【成果】年度途中から、働き方改革の一環として、全職員による登校指導・下校指導を取りやめた中で、日常の指導により成果が上がった。 【課題】必要に応じて、登	

					校指導・下校指導は適時行うことができたが、常に活動できる人材の確保が課題である。挨拶については、概ねできている。マナーの指導については、校則に基づいた指導の徹底が課題である。
	整容指導の充実	日常的な指導の充実と、学年集会等での整容指導を年7回実施した状態をめざす。	検査は生徒指導部が立案し各学年と連携して実施する。 全職員で指導する。 生徒会生活委員会による呼びかけを実施する。	A	【成果】整容検査は、各学年で計画通り行うことができた。各学年、違反者は少なく、違反者0の回もあった。 【課題】教育環境の変化に応じた、整容指導のあり方の工夫・改善を図る。
	交通安全意識の高揚	年5回の登校指導と、不定期の下校指導を実施し、新規単車通学生への免許取得指導実施をめざす。 単車通学生の実技講習会を年1回、保護者を状況に応じて年1回の実施をめざす。自転車2重ロック点検を毎月1回実施し、交通講話の計画実施をめざす。	登校指導は生徒指導部で立案し、全職員で実施する。 下校指導は生徒指導部が実施する。 単車通学生への指導については、地元の企業や自動車学校、警察署と連携した活動を行う。	A	【成果】働き方改革の一環で、年度途中から、全職員による登校指導を取りやめ、必要に応じて、交通指導や巡回指導を適時行った。 【課題】今年度は、単通生の事故件数が4（昨年度5）、違反は0（昨年度0）であった。単通生に対しては、臨時集会等を通して指導してきたが、事故が0とはならなかったことが課題である。事故0を目指して、全生徒に対して指導を継続したい。単通生の免許取得に関する規定を見直したい。
生徒会・部活動等の活性化	生徒を全面に出す取組の推進	各種行事等において生徒の主体性が発揮された状態をめざす。	生徒の企画・立案に基づき生徒会担当職員を中心に、全職員で支援していく。	B	【成果】新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、体育祭は中止した。若駒祭は生徒との対話を通して意見を吸い上げ、それを行事に反映させることができた。
	文武両道の推進	国のガイドラインに沿って部活動が計画的に実施された状態をめざす。	部活動顧問会を学期に1回実施し、各部活動顧問との連携を図る。 本校の運動部活動方針を策定し、先行実施する。 各部活動顧問との連携と、活動実績により活動状況を把握する。	B	【成果】本校の部活動方針（運動部、文化部共通）を策定し、実施した。 【課題】活動実績や状況把握の徹底に課題がある。部活動の取組について朝会等で周知していく必要がある。

人権教育の推進	研修の充実と推進体制の機能強化	年間指導計画の作成と校内研修の実施	年度当初に年間計画を作成し、年間3回校内研修を実施。また校外研修へも積極的に参加する職員集団をめざす。	人権教育部が立案し、全職員で取り組む。人権教育推進委員会にてその都度総括を行い、次年度の計画策定の参考とする。	B	「コロナ」の影響で4月の第1回研修は書面での周知、という形をとった。校外研修の多くが中止となり、例年通りの取組はできなかったが、次年度は状況に応じて可能な限り機会を設けたい。
	指導方法等の工夫と改善	教科指導における取組の推進	人権教育の視点を持った教科指導が充実した状態をめざす。	人権教育全体計画の中に各教科・科目の目標を設定し、それによって教科指導を行う。	B	【成果】人権教育全体計画の中に各教科・各部の目標を設定した。 【課題】さらに、日常的に自らの言動を点検しながら生徒に接していく必要がある。
		H R 活動における取組の推進	1年生5回、2年生4回、3年生3回の実施をめざす。	各学年の人権教育担当が立案し、学年全体で取り組む。	B	【成果】必要に応じて人権教育推進委員会を開催し、授業内容の検討、総括等を行いながら、取組を進めた。 【課題】今後さらに教材の改善に努めなければならない。
	学習機会の充実と指導者の育成	外部講師による講演会の開催	人権教育講演会や職員研修の実施により意識向上が図られた状態をめざす。	対象学年の状況に応じた内容、本校教職員に必要な内容を吟味して人権教育部が立案し実施する。実施後も総括等を行い、更に理解の深化を図る。	A	【成果】同和教育について外部講師を招き、職員向けの講演会を開いた。また、高校1年生を対象に「スマホ・ネットリスク」に関する講演会を実施した。次年度も継続したい。
		家庭への啓発活動の推進	保護者集会の機会、HPや育友会だより、人権教育通信等を利用した啓発活動が充実した状態をめざす。	入学式や育友会総会等で学校の取組を周知し、啓発を行う。人権教育部やスクールカウンセラーからの「たより」を発行し、学校での取組をHPで紹介する。	B	【成果】「人権教育部からのお知らせ」「スクールカウンセラーだより」を複数回配付して、人権教育の取組、「家庭でのいじめチェック」、相談窓口の紹介、カウンセリングに関する情報等の紹介を行った。
	「命を大切にす心を育む」指導	自他の命を大切にしようとする姿勢の育成	関連するテーマの授業を設定し、「命を大切にす」視点をもった日常的な指導が充実した状態をめざす。	人権教育LHR等を軸に「命を大切にす」ことを訴える。また、その視点をもって日常的な指導に当たるよう職員に働きかける。	B	【成果】「命を大切にす心を育む」LHRを設定した。また、各自の実践等について話し合う研修を設定した。 【課題】日常的な指導については常に点検が必要である。

いじめの防止等	いじめの未然防止と早期発見	生徒の意識高揚	6月の「心のきずなを深める月間」をはじめ、年間を通した啓発活動が充実した状態をめざす。	人権教育部が立案し、生徒指導部、いじめ防止等対策委員会をはじめ学校全体で取り組む。	B	【成果】心のきずなを深める月間では標語を作成した。「コロナ」に伴う偏見や差別が生じないように十分配慮し、感染者へのいたりや差別をしないようにとの取組を行った。 【課題】いじめ問題に関する授業（LHR）を5月に計画していたが、「コロナ」の影響で実施できなかった。いじめ問題については継続的な指導が必要である。
		職員の意識高揚	研修等を通して「いじめ防止基本方針」等の理解が促進された状態をめざす。		B	【成果】いじめ防止基本方針等について資料を配付し、職員に周知を図った（今年度は「コロナ」の影響で全員を集めて確認することができなかった）。
		いじめの早期発見	学期に1回「心のアンケート」を実施し、いじめの早期発見をめざす。		B	【成果】計画に沿って心のアンケートを実施し、結果としていじめの発見につながった。他の手立てとして「匿名通報アプリ」の周知も図った。 【課題】その他の有効な手立てについて、今後も検討していきたい。
	生徒理解の推進	組織的な生徒支援	各学期に生徒支援委員会を開き、生徒情報の共有を図り、特別支援教育の校内委員会、ケース会議等の充実をめざす。	人権教育部や各学年が立案し、生徒指導部、生徒支援委員会をはじめ学校全体で取り組む。	B	【成果】計画に沿って生徒支援委員会を開き情報共有の機会とした。 【課題】情報共有の在り方の見直し等を随時行っているが、今後もあるべき形を模索していかなければならない。
		親身になった教育相談	担任面談の充実、スクールカウンセラーの活用促進をめざす。		A	【成果】スクールカウンセラーに多くの相談が寄せられた。SCと担任とが適切に情報を共有し、深刻な事態にも迅速に対応できた。 【課題】「コロナ」の影響で、担任面談の機会が設けづらかった。
	言語環境の整備	読書活動の推進	蔵書の充実と図書館内の整備	選書にあたり、先生方の希望を大いに取り入れ、利用	先生方に図書購入希望調査を提出してもらい、意見、アイデアをいただく。興味	

			しやすい図書館づくりが進んだ状態をめざす。	をひく特設コーナーの設置、充実に取り組む。	A	図書の受け入れ、廃棄手続きがかなりの負担だが、途中から応援いただきスムーズに進むようになった。
		朝の読書の実施	学期毎に2週間程度、全職員・全生徒で10分間実施した状態をめざす。	図書部が立案し学校全体で取り組む。 より効果的な取組が出来るように改善をしていく。	A	【成果】2学期のみの実施となったが、生徒たちはよく集中していた。
		図書だよりなどの発行	月1回以上発行しホームページに掲載した状態をめざす。	図書部等が立案し実施する。	A	【成果】執筆者のご協力により、おおむね順調に「考人」を発行することができた。
		図書館終礼の実施	1・2年各クラスで年間1回以上実施された状態をめざす。	図書部等が立案し実施する。	A	【成果】各クラス2回程度実施できた。
書く力の育成	小論文指導の推進	3年生は、「総合的な学習の時間」で、2年生は「総合的な探究の時間」で小論文作成に取り組む、生徒が、より深い思考力や読解力、文章表現力等を身に付けた状態をめざす。	各学年と進路指導部が連携企画し、学年全体で取り組む。 2年の「総合的な探究の時間」、3年の「総合的な学習の時間」では、協議やディベートなど協働的な取り組みを導入し、思考を深め、立論する力、表現する力を育成する。 関係職員の意見を聞き、最新の入試テーマに関連性のある書籍等の小論文資料を充実させる。	B	【成果】3年生については、多少、休校等の影響でスケジュールに遅れが生じたが、概ね予定どおりの指導ができた。 【課題】次年度に向け、図書部との連携も図りながら、指導内容の充実を検討する。	
保健環境指導	環境教育の推進	学校版環境ISOの取組	学期毎の環境週間（エコチェック・美化チェック）の取組が徹底された状態をめざす。	保健環境部が生徒指導部及び附属中学校と連携・立案し、学校全体で取り組む。	B	【成果】今年度エコチェックの結果、生徒職員とも高い評価（達成率90%、80%）を得ている。また、これまで行ってきたペットボトルキャップのリサイクルに加え、今年度からコンタクトレンズのリサイクル活動を追加し、美化委員会から生徒へ協力を呼びかけた。 【課題】今年度、学校ISOについて生徒の意見を取り入れ、変更する予定にしていたが、コロナの影響、休校で検討する時間が取れず、次年度に検討する。エコチェックについても同様に、次年度さらに生徒

					への周知等委員会活動を活発にしたい。
		温暖化防止への取組	省エネ・省資源の取組が推進された状態をめざす。	保健環境部が立案し、学校全体で実施する。エアコン使用時、コロナ感染症対策をしながら効率的な換気等の指導を行う。	<b>B</b> 【成果】教室の換気等の指導については、学校薬剤師の助言をいただきながら、職員生徒に換気方法等について周知を行った。また保健委員会活動として校内放送等も利用して効果的な換気方法等の啓発活動を行った。 【課題】教室不在時、エアコンスイッチの切り忘れ防止の指導等を今後さらに強化したい
	健全な心身の育成	健康診断後の早期受指導と治療率向上	治療勧告書・保健便り等で定期的に治療を促し、治療率が向上した状態をめざす。	保健環境部が企画し、各学年で取り組む。	<b>A</b> 【成果】コロナ感染症の影響で、健康診断が延期されたが、学校医の協力で、早い時期に検診が実施できた。そのため、治療勧告も早めに配付することができ、受診率も上がった。 【課題】受診の必要性について生徒にさらに周知する必要がある。
		外部講師による講演会の開催	心身の健康に関する講演会の実施により、意識が高まった状態をめざす。	コロナウイルス感染症対策を行いながら、保健環境部が立案し、全学年で実施する。	<b>A</b> 【成果】1, 2年性教育、薬物乱用防止教室については、感染症対策を行い、例年とは違う形であったが、開催することができた。
保護者・地域住民との連携（コミュニティ・スクールなど）	育友会との連携	育友会だより作成の支援	定期発行版及び臨時発行版のための円滑な資料提供及び原稿の依頼回収が実施された状態をめざす。	総務部が中心となり、育友会だよりの原稿等については全職員で対応する。	<b>B</b> 【成果】育友会行事が実施できず、発行回数が少なくなったが、広報委員会からの原稿依頼に対して、該当職員・生徒からスムーズに原稿の提出が行われた。
		体育祭・若駒祭・小岱山一周大会での連携	育友会と学校との役割分担を明確化し、連携することで各行事における育友会の円滑なサポート体制づくりが整った状態をめざす。	総務部が中心となり学校全体で取り組む。	<b>B</b> 【成果】コロナ禍で、育友会と例年通りの連携を行う行事が実施できなかった。その中で学年別保護者会や3年生の激励会など、協力の場面は少なかったが、それぞれが工夫した取組を行った。
		育友会総会や地区懇親会等での連携	育友会本部役員と協力して、分かりやすい資料の提供	総務部が中心となり学校全体で取り組む。	<b>B</b> 【成果】育友会総会は、書面による審議形式に変えて、育友会本部と協力

			、説明が行われた状態をめざす。地区委員と連携をとり、地区懇親会が円滑に開催された状態をめざす。	総務部と育友会事務職員が協力し、学校全体で取り組む。		して行うことができた。感染症予防の観点から、地区懇親会は開催できなかった。
地域への貢献	地域への開放、地域への貢献を意識した活動の充実	公開授業、夏休みの地域児童への学習支援活動を行い、地域の行事などに積極的に参加する意識が向上した状態をめざす。	各担当を中心に全職員で取り組む。地域の行事への参加者募集などには、学級担任や各種委員会担当者が積極的に参加するよう呼びかけを行う。		B	【成果】地域の行事の多くは中止されたが、玉名市が主催する地域活性化に向けた取組に参加するなど、できる範囲で積極的に参加した。
	ボランティア活動の推進	ボランティア委員会を中心に活動を実施する。学年毎の取組が推進された状態をめざす。	ボランティア委員会を中心に、学年及び全体に呼びかけ活動する。		A	【成果】令和2年7月豪雨、人吉・球磨地方、球磨川氾濫における災害ボランティア活動に自主的参加した生徒が23名。玉名市菊池川ハゼ並木清掃・保全活動に34名参加した。
地域との連携	防災型コミュニティ・スクールの充実	防災型コミュニティ・スクールの活動をとおして、地域との連携が深化した状態をめざす。	学校運営協議会において、大規模災害時の連携を、対応マニュアルを用いて確認する。		B	【成果】3校合同の学校運営協議会で、今年は北稜高校の大規模災害時の連携を周知した。 【課題】「総合型コミュニティ・スクール」への移行に併せて、さらに地域との連携を深化させる取組を工夫していく必要がある。

#### 4 学校関係者評価

##### 【学校経営】

- ・オンライン授業、ICT教育への対応で、先生方の授業準備の時間、時間外勤務が増加しているのではないかと先生方の健康を心配している。先生方が元気でないと、生徒も元気に過ごせないと思う。
- ・学校評価アンケートの「入学してよかった」という項目で、否定的評価が17.8%である点が気になった。

##### 【学力向上】

- ・互観授業はよい方法だと思う。公開授業のオンライン化は生徒募集にも役立つと思う。
- ・臨時休校期間の新入生への対応、特に大変だったと思う。オンラインの良い面もあるが、対面授業の大切さを感じて、学校生活の中で先生や友人達から受ける色々な刺激を受け止め、心豊かで優しさを備えた人に育ててほしいと思う。

##### 【キャリア教育の推進（進路指導）】

- ・玉名高校にはやはり進学校として大学進学指導等の充実を期待している。
- ・習熟度授業や課外の実施は、生徒に自信を付けさせていると思う。

##### 【生徒指導】

- ・長年の歴史ある行事や学校の方針が、先生方の御指導のもと生徒の中で受け継がれて、個人の行

動を正しく導いているように思う。

- ・コロナ渦の中、生徒会の活動や部活動があまり実施できなかったことがうかがえる。不完全燃焼の生徒の心に向き合うことも大切だと思う。

#### 【人権教育の推進】 【いじめの防止等】

- ・人権教育については、このような時だからこそ、より丁寧に実施されることが望まれる。
- ・進学校としての教育もちろん大切だが、心の教育が必要な生徒もいる。時代の変化に応じて、勉強だけではなく総合力をつける指導をお願いしたい。

#### 【保健環境指導】

- ・若駒祭が生徒の手でコロナ防止に留意しながら行われたことに感心した。
- ・学校からクラスターが出なかったことが何よりの成果だと思う。

#### 【言語環境の整備】

- ・図書館も頑張っている。図書館便りを読みたくなった。
- ・玉高図書館の史料は研究者も参考にされている大変貴重なものが多い。共通テスト等でも様々な資料をもとに応用する力が試される問題が出題されていた。生徒達が身近に使えるように、大切に保管してほしい。

#### 【保護者・地域住民との連携】

- ・今年度はコロナ渦の中、育友会と同窓会が連携し、早急に必要とされた Wi-Fi 環境の整備を行った。今後も連携して学校を盛り立てていきたい。
- ・学校と育友会（保護者）のキャッチボールということで、特に災害時や緊急時の情報発信の面（ホームページや安心安全メールによる迅速な連絡・対応）が、よりよい方向に進んだ。
- ・コロナ渦の中で、いろんなボランティアに参加してその地域の中に身を置いてみることは、子供が成長する上でとても大事なことだと思う。
- ・コロナ渦で、今年度は実施できなかった行事が多かった。今後への引き継ぎが生徒も保護者も課題であるが、育友会もより一層協力していきたい。

## 5 総合評価

本年度の教育スローガンは昨年度に引き続き「夢実現・未来への挑戦 ～知性と感性を備えた若駒たれ！～」とした。

【学校経営】職員対象のアンケートでは、学校の組織力の向上、安全な学校づくりの項目において、肯定的評価が上昇した。今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、例年と異なる形での行事や取組が多かったが、結果として様々な場面で ICT 機器の活用が進んだ。業務改善については、衛生委員会等を中心として「スムーズな定時退勤に向けた『意識』と『行動』の変容」という宣言文を提言し、職員室等に掲示するとともに、長時間勤務の改善策として、生徒完全下校時間の改定、新たに部活動休止日、定時退勤日の設定を行った。生徒募集に関しては、中学校訪問をより積極的に行い、ホームページや学校案内パンフレット等の魅力化を図り、動画やポスターで本校の魅力を発信するなど、様々な方法で本校への理解促進に努め、目標であった入学志願者の倍率 1.0 倍には届かなかったが、昨年とほぼ同じ出願者数を維持できた。

【学力向上】令和 3 年度の 2 年次生からの特進クラスの設置に向けて、コンセプトや教育課程等について検討し、内外に周知するとともに準備を進めてきた。在校生だけでなく、受験生や保護者からの関心も高く、本校の新たな魅力として教育活動の充実を図っていきたい。

【キャリア教育の推進（進路指導）】学校評価アンケートの進路指導に関する項目は、保護者・生徒・職員の全てにおいて肯定的評価が上昇した。新型コロナウイルス感染症の影響により、実施できなかった行事もあったが、リモートによる講座の実施等、生徒の進路希望に応じた適切な指導の充実により、大学入試においても確かな進路実績に繋がった。

【生徒指導】学校評価アンケートの生徒指導に関する項目で、保護者の肯定的評価が 76.2% → 82.5% と増加した。体育祭は中止したが、若駒祭（文化祭）は新型コロナウイルス感染防止に留意しながら生徒会を中心に開催することができた。部活動については、活動方針に基づき実施し

ているが、活動実績や状況把握の徹底が課題である。

【人権教育の推進】【いじめの防止等】新型コロナウイルス感染症に起因する偏見や差別が生じないよう十分配慮しながら、適切に指導することができた。いじめ問題については継続的な指導が必要である。生徒支援委員会における情報共有の在り方については、今後もよりよい形を模索していかなければならない。

【言語環境の整備】図書館終礼や朝の読書による図書館の活用、図書館便りの発効等を通して、生徒の読書に対する意識の向上が図られている。貴重な史料を所蔵する充実した設備を今後も十分に活用することで言語環境の整備に繋げたい。

【保健環境指導】新型コロナウイルス感染症の拡大については、ガイドラインに沿って対策を徹底するとともに、様々な行事についてもコロナ防止に留意しながら行った。

【保護者・地域住民との連携】育友会及び同窓会と連携することで、ICT環境の整備や生徒激励のための行事等を充実させることができた。地域活性化に向けた取組やボランティア活動にも、できるかぎり積極的に参加した。

以上のように、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、状況の変化に早急に対応しなければならない場面が多かったが、全職員で連携し工夫しながら学校の教育活動を充実させることができた。準備は進めながらも、中止せざるを得ない行事が多かったため、評価できない項目が数項目あったが、本校の教育目標の達成に向け、各担当部署を中心に、学校評議員の御意見や学校評価アンケートの結果などを参考にしながら積極的に取り組んでいる。次年度以降も、今年度までの取組を継承しつつ、その効果について検証し、改善を図っていくことが必要である。

## 6 次年度への課題・改善方策

次年度の最重要課題は生徒募集（本校の魅力発信）と業務改善（働き方改革）である。

生徒募集については、地域から期待される進学校として、生徒の学力向上、進学指導の充実、新設する特進クラスの指導体制の構築、併設型中高一貫教育校の特色を活かした教育活動、1人1台端末整備に係る先行実践校としての取組の充実等を進めていく予定である。新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、体育祭等の本校の核となる学校行事を実施し、生徒の主体的な活動の機会を確保することで、学校に対する満足度の向上を目指す。次年度からの「総合型コミュニティ・スクール」への移行に併せて、地域との連携をより一層深化させ、創立120周年に向けて、同窓会との連携を図りつつ、積極的な情報発信により本校の魅力をさらに周知できるよう取り組む。

業務改善については、現在、次年度に向けて校務分掌の再編を進め、業務の削減と平準化に取り組んでいる。また、衛生委員会を中心として、「職員の『意識』と『行動』の変容」を図り、本校の教育活動の充実とともに働き方改革を推進する。教育の情報化におけるICT活用は、魅力ある授業、個に応じた授業、協働的な学び等の授業改善に直結するため、職員の指導力のさらなる向上が求められる。ICT整備の先行実践校として、県内におけるモデルとしての実践をとおして、社会の変化に応じた新たな働き方を模索し、よりよい教育環境の整備と業務改善を進めていきたい。